

化学工学会 材料・界面部会 共通基盤技術シンポジウム 2025 報告書  
実行委員 菰田悦之、山村方人、渡邊貴一、高橋真一、宇部卓司、島貫純一  
部会事務局 渡邊貴一(文責)

化学工学会 材料・界面部会 共通基盤技術シンポジウム 2025 が 2025 年 1 月 10 日(金)に神戸大学瀧川記念学術交流会館にて開催された。2023 年以来 2 年ぶりのシンポジウム開催であった。本シンポジウムは各種材料プロセスを横断するような共通課題(基盤技術)について議論する場を提供し、基盤技術の体系化を図るとともに、学会と産業界との連携を図ることを目的としたものである。今年度は、初の試みとして、日本顕微鏡学会 液状材料の微細構造研究部会との共催で、クライオ電子顕微鏡技術の材料評価やプロセス評価への活用を中心に取り上げた。従来、生体・細胞分野で使われてきたクライオ電子顕微鏡技術を液状材料やプロセスなどの研究に活用すると、どういった構造を見ることができるか、技術としてどういった課題や今後の展望があるか等について幅広い視点からの議論がおこなわれた。

しっかりと議論の場を設けるため、今回は、コロナ禍後、初めての対面開催(オンライン配信なし)とした。上述の両学会関係者および関連の協賛団体に広く声掛けをおこなった結果、総勢 60 名の参加登録があった。内訳は、企業 26 名、大学教員 25 名、国立研究機関 4 名、学生 5 名である。企業からの参加者が多く、クライオ顕微鏡技術への関心の高さ・最新技術としての期待の高さが伺えた。詳細な講演内容は後述のシンポジウム案内をご参照いただきたい。夕方からは、オーガナイザーが推薦した企業・大学にポスター発表をお願いし、軽食を交えながら、詳細な技術について議論する場を設けた。軽食を交えながらの交流会は、対面開催の良い面であり、産学官学生のネットワーキング形成や意見効果の場として大いに盛り上がった。今後も、産学連携や分野を越えた交流の場として、共通基盤技術シンポジウムを継続的に開催することが望まれる。なお、企画から開催に渡り、部会幹事会メンバーのご協力を得たことを記して謝意を表す。

### 共通基盤技術シンポジウム 2025 収支報告

支出	
会場(神戸大学瀧川記念学術交流会館 前日準備を含め 8h 利用) 使用料	: 32,000 円
講演謝金(11,023 円×8 名、源泉税込)	: 88,184 円
アルバイト代(3,000 円×3 名)	: 9,000 円
交通費宿泊費(8 名合計、源泉税込)	: 251,306 円
参加登録+クレジット決済サーバー利用料(京王観光株式会社)	: 434,474 円
飲食代	: 145,500 円
振込手数料(11 件)	: 1,815 円
計	: 962,114 円
収入	
参加費	
正会員(15,000 円×29 名)	: 435,000 円
協賛学会員(15,000 円×10 名)	: 150,000 円
非会員(30,000 円×10 名)	: 300,000 円
学生(0 円×4 名)	: 0 円
日本顕微鏡学会共催費(60,000 円×1 件)	: 60,000 円
材料・界面部会補助	: 17,114 円
計	: 962,114 円
収入-支出	= 0 円